※本情報提供に関しては、ご本人・ご家族の承諾を得ています。 なお、転院された場合の転院先への情報提供についても、ご本人・ご家族の 【入院時情報提供書 居宅介護支援事業所→医療機関(転院先も含む)】 承諾を得ています 病院扫当者様 2018 年 3 月 11 日) 入院日: 11 H 肺炎で入院した方 予定入院の際も、本情報提 の記入例 供書をご使用ください。 シガハナコ 生年月日 年齢 滋賀 花子 様□男 1928 年 89 歳 ☑ 女 11 月 16 日 以石 住所 家族状況 彦根市〇〇町〇〇〇 キーハ゜ーソン 滋賀 一郎 長男 (TEL) □□ - △△ - ○○○ 様 清美 緊急時連絡先 長男の妻 (TEL) 滋賀 様 (木 情 独居 無 申請中 要支援 要介護 2 要介護度 \Box 7 П 報 有効期間 2019 2017 月 在 月 在 3 31 4 1日 Н 夫を早くに亡くし、工場で60歳まで勤務し、二人の子どもを育て上げられる。 息子家族にはできるだけ迷惑をかけたくないと、一人暮らしを頑張ってこられ 生活歴 た。近隣に友人や老人会の仲間との交流あり。(息子家族とは関係が良いが、県 (家族関係含む) 外で仕事が多忙。) 2017 2017 無 🗸 有 年 11 月 7 日 年 12 月 18 H 過去半年間の入 (原因疾患) 脳梗塞 院 院有無と 歴 原因疾患 家族理解・支援配慮要(追加情報あり) 〈特記事項> 屋内歩行 自立 一部介助 全介助 1 П 杖歩行。転倒のリスクが高いため必要に応じて見守りや軽 歩行器 🗆 (移動手段) 車いす その他 杖 🗆 く身体を支える介助をおこなっています。 デイサービスの送迎時など外出の際には、車いすを 屋外歩行 白立 一部介助 全介助 П J 使用し、スタッフが介助をおこなっています。 (移動手段) 車いす その他 歩行器 □ 村 口 П 身体の方向転換時に支える介助が必要です 移乗 自立 一部介助 全介助 🗆 П П デイサービスで週2回入浴されています。できるとこ 入浴 一部介助 全介助 🗆 行っていない 自立 7 ろは自分で洗身されており、背中や足先、洗髪など 入浴場所 自宅 通所 訪問入浴 は介助をしています デイサービスではトイレ、自宅ではポータブルトイレを使用し 白立 7 一部介助 П 全介助 🗆 トイレ ています。尿パット、リハビリパンツを使用されて 排泄 ポータブル 🗵 おむつ カテーテル 🗆 パウチ います。夜間に失禁されることがあります お茶でむせることが時々ありますが、食欲はあり自 一部介助 全介助 🗆 経管栄養 自立 食事摂取 力摂取されています。 食事形態 普诵 薬の飲み忘れがあり、一包化した上で、お薬カレン (内服) ☑ 一包化 自立 \checkmark 一部介助 全介助 薬 ダーを使用しています。 (外用)□ 貼付 塗布 点眼 П 処置 なし 🔽 点滴 П 吸引 酸素療法 (ボ/分) インスリン 🗆 诱析 褥瘡 院 認知機能 自立 П Π \blacksquare $\mathbf{IV} \square$ М 不明 (※ケアマネが入院前の状況を判断) П 1 前 ഗ BPSD 徘徊 介護への抵抗 □ 焦燥・不穏 □ 攻撃性 🗆 幻視・幻聴 □ 大声を出す なし 🗆 昼夜逆転 П 状 精神状態 鬱傾向 意欲低下 せん妄の既往 その他 П 況 (本人の生活面の困りごと) (家族の介護上の困りごと) (住環境/用具使用上の課題) 入院前の トイレに行きたいが、足の力が落ち 最近こけることが増えてきた。目が 居室からトイレまで10mあり、 生活上の 段差(15cm)が多く、車いすは使えな て歩きにくい。お茶でむせることが 見にくいのか、インシュリンをうま 困りごと 多い。青魚でじんましんが出てかゆ く打てなくなってきた。 くなる。 住環境の写真・見取り図を添付 機関名 〇〇医院 医師名 大津タロウ 医師 主治医 訪問診療 (TEL) △△△ - ●● - ◆◆◆◆ (頻度:月1回) (TEL) 歯科 機関名 薬局 機関名 〇〇薬局 (TEL) 訪問看護 ○○訪問看護ステーション (TEL) ○○○ - ●● - ■■■■ 事業所名 リハ職 事業所名 (TEL) П PT □ 0T 🗆 ST 利用日、サービス事業名、事業所名 居宅サービス計画書(1~3) を添付 1 介護サービス |月・木:訪問介護 火・金:通所介護 水:訪問看護 〇〇福祉用具事業所 福祉用具 車椅子 □ 歩行器 ☑ 特殊寝台 床ずれ防止用具 🏻 徘徊感知器 □ その他 退院に向けて 出来れば希望 □ (本人)☑ どちらでもない 強く希望 П 不安 自宅での生活継続に (家族) □ 出来れば希望 どちらともいえない(本人次第) 不安 強く希望 \Box J \Box 対する思い トイレへの移動が、生活上の大きな支障になると思われます。動線部分には15cm程度の段差があり、車いすも使えな 退院に向けて いため、杖歩行が10m程度でき、かつ15cmの段差が越えられるようご配慮いただければ幸いです。(退院後の自宅で の生活上で一番の課題となることを想定した上で、特に専門職に配慮いただきたい内容を記載します。あくまで、ゴール 設定をおこなうのは病院の専門職です。ゴール設定に参考となる情報を提供します) ケアマネからみた 生活上の一番の課題 事業所名 〇〇〇ケアプランセンター 担当者名 高島 和江 所在地 彦根市〇〇町〇〇〇 (TEL) ○○○ - ●● - ■■■■ (FAX) □□□ - ●● - ▲▲▲▲